

第2回

丸森地区河川防災ステーション整備・利活用検討委員会

日 時：令和4年 1月17日（月）

10：00～

場 所：丸森町役場 302会議室

次 第

1 開 会

2 あいさつ

3 第1回委員会の概要報告

4 検討事項

(1) 丸森地区河川防災ステーション整備・利活用修正案

(2) 今後のスケジュール

5 閉 会

丸森地区河川防災ステーション整備・利活用検討委員会
名 簿

団体名	所属等	氏名	備考
東北大学大学院	工学研究科教授	田中 仁	委員長
東北大学	災害科学国際研究所准教授	平野 勝也	
東北大学	災害科学国際研究所准教授	柴山 明寛	
国土交通省東北地方整備局	仙台河川国道事務所副所長	平舘 淳一	
宮城県	大河原土木事務所副所長	熊谷 滋雄	
丸森町観光物産振興公社	理事長	横山 博昭	
丸森町商工会	会長	白木 寛一	
丸森町消防団	団長	佐野 昭一	
丸森地区協議会	会長	岡崎 俊範	
丸森町役場	副町長	佐々木 秀之	副委員長
〃	総務課長	大内 一郎	
〃	企画財政課長	長門 修	
〃	復興対策室長	日下 健	
〃	建設課長	八巻 一浩	
〃	農林課長	引地 誠	
〃	商工観光課長	穴戸 光晴	

第1回 丸森地区河川防災ステーション整備・利活用検討委員会

議事概要

- 1) 開催日時 : 令和3年11月16日(火) 10:50~12:20
 2) 開催場所 : 丸森町役場 302会議室
 3) 出席者

団体名	所属等	氏名	備考
東北大学大学院	工学研究科教授	田中 仁	委員長
東北大学	災害科学国際研究所准教授	平野 勝也	
東北大学	災害科学国際研究所准教授	柴山 明寛	
国土交通省東北地方整備局	仙台河川国道事務所副所長	平舘 淳一	
宮城県	大河原土木事務所副所長	熊谷 滋雄	
丸森町観光物産振興公社	理事長	横山 博昭	
丸森町商工会	会長	白木 寛一	
丸森町消防団	団長	佐野 昭一	
丸森地区協議会	会長	岡崎 俊範	
丸森町役場	副町長	佐々木 秀之	副委員長、欠席
〃	総務課長	大内 一郎	
〃	企画財政課長	長門 修	
〃	復興対策室長	日下 健	
〃	建設課長	八巻 一浩	
〃	農林課長	引地 誠	
〃	商工観光課長	宍戸 光晴	

4) 議事次第

- 1 開会
- 2 委嘱状交付
- 3 あいさつ
- 4 設置概要説明
 - (1) 丸森地区河川防災ステーション整備・利活用検討委員会設置趣意書について
 - (2) 丸森地区河川防災ステーション整備・利活用検討委員会に関する設置要綱について
- 5 委員長選出及び副委員長の指名
- 6 検討事項
 - (1) 検討委員会に関する公開方法について
 - (2) 丸森地区河川防災ステーション整備・利活用について
 - (3) その他(今後のスケジュール)
- 7 閉会

5) 協議結果

(2) 丸森地区河川防災ステーション整備・利活用について

施設配置計画について

(主な意見)

- ・2つあるボックスカルバートのうち川側も埋めてフラットな上面とし、水防センターの建物を設置すると川側の眺望の良さを活かすことができる。
- ・平常時の住民や観光客の利用を想定し、資材の見えを意識した配置・成形の工夫を検討してほしい。
- ・拠点施設となる水防センターから船着場等のある川側へ下りる坂路を整備してほしい。
- ・敷地への進入路が既存の交差点のみではわかりづらいため、新たな進入路整備を検討してほしい。丸森大橋の整備により町内を通過する交通流も変化しており、いかに町内に誘導するかが課題である。
- ・災害時の車両受入台数や避難方法など、具体的な想定に基づいた配置計画としてほしい。
- ・防風林としての機能および公園利用を想定し、植栽を計画してほしい。

水防センターについて

(主な意見)

- ・水防センターを町のゲートウェイとするためには、道の駅や川の駅等の枠組みも活用し、建物の規模や機能を拡張させることを検討したい。建物のデザインも重要な検討項目である。
- ・丸森町に住み始めた人や観光等で外部から来た人へ、防災の観点から水害を含む町の歴史や土地利用の変遷を紹介できる施設となると良い。教育旅行等の受け入れを想定する際、施設内のレイアウトの検討も重要である。
- ・拠点施設の規模や機能は、運営を担う事業者の利活用メニューや経営力から判断し、持続可能な事業としていくことが重要である。

平常時利活用について

(主な意見)

- ・平常時は公園のような場所や阿武隈ライン舟下りの拠点として利活用し、地域の交流・憩いの場としたい。
- ・外部からの観光利用だけでなく、地域の子どものための日常的な利用のため、内川に川遊びの場を整備してほしい。
- ・町のゲートウェイを目指す場合、町内の他の施設・拠点への誘導方法や交通手段についても議論していきたい。
- ・防災ステーションのすぐ脇にあたる丸森大橋下流側に新たな船着場を整備し、あわせて船の航行に配慮してほしい。
- ・丸森橋下流右岸の高水敷を過去に(社)阿武隈川環境整備公社より整備いただいたが、さらなる利用促進に向けて遊歩道の整備や樹木の伐採を検討したい。

検討の進め方について

(主な意見)

- ・防災ステーションの整備の他、道の駅やかわまちづくり等、他事業の枠組みを活用する可能性があるが、トータルデザインを議論する場を設け、一貫性のある検討としたい。

(3) その他 (今後のスケジュール)

・事務局

第2回検討委員会(日程調整中)で委員会案を取りまとめ、それを住民説明会にて説明し、第3回で住民意見を踏まえた素案を取りまとめる予定。

第2回 丸森地区河川防災ステーション整備・利活用検討委員会 ＜説明資料＞



目次

- 1. 河川防災ステーション整備の目標と方針……………1
- 2. 土地利用・動線・施設配置の見直し……………2
- 3. 水防センター整備計画（案）……………4
- 4. 河川防災ステーションの平常時利活用（案）……………5
- 5. 河川防災ステーションの災害時利用（案）……………8
- 6. 河川防災ステーション周辺の利活用構想（案）……………10

令和 4年 1月17日
国土交通省 東北地方整備局仙台河川国道事務所
丸森町

1. 河川防災ステーション整備の目標と方針

整備目標

- ① 防災
阿武隈川の安全・安心を高める広域的な防災拠点の確保。
- ② 地域活性化
R113号と阿武隈川に隣接する立地条件を活かした丸森町の新しいゲートウェイ機能の創出。

候補地周辺航空写真



整備方針（案）

- ① 立地選定
丸森町河川防災ステーション候補地の概要は以下のとおり。
 - 当該予定箇所周辺は、「令和元年東日本台風」による浸水被災地である。
 - 緊急輸送道路に位置付けられている国道113号に隣接しているほか、近傍に高速道路が2系統（常磐自動車道・東北自動車道）あり、**広域的な災害時の拠点として活用可能**。
 - 市街地に近く、災害時における**住民の緊急避難場所としての機能性が高い**。
 - 市街地に近接した場所であるほか、既設の船着場も近くにあり、**阿武隈ライン舟下りの発着所としての活用等、平常時の利用が見込まれる**。
 - 当該計画地は、**災害時の丸森町役場の代替機能（支援物資等の集積所、仕分け拠点）を担うのに最適な場所**である。
- ② 土地利用・動線・施設配置
 - 必要とされる広域的な防災拠点としての施設・資材を確保する。
 - 丸森町の地域活性化を推進するための諸施設を導入する。
 - 防災上の機能を損なわないよう配慮した上で、平常時の利活用を考慮した施設配置とする。
- ③ 水防センター
 - 必要とされる防災時の機能を満たす諸室構成とする。
 - 丸森町のゲートウェイとするため、観光レクリエーションで必要とする諸室を確保する。
 - 諸室は平常時の利用を考慮した配置とする。ただし防災時の緊急時利用に十分配慮する。
- ④ 河川防災ステーション周辺の平常時利活用の推進
 - 阿武隈川と一体的になった平常時の利活用を推進する。
 - 防災資材の上面や災害時の駐車場を広場や公園として多目的に利用する。

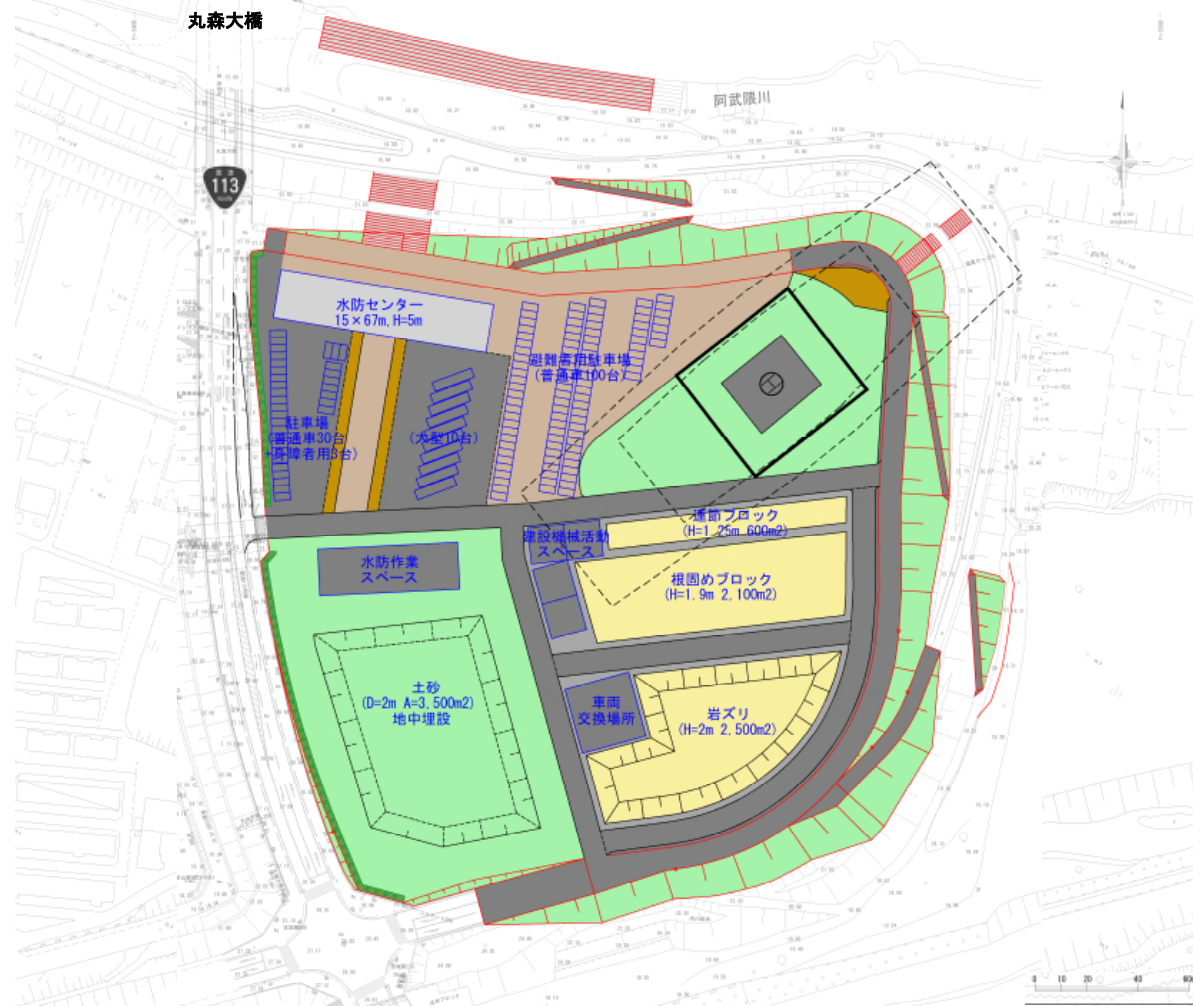
2.土地利用・動線・施設配置の見直し

- 土地利用・・・川側のボックスカルバートは埋設、土砂部分の広場利用、阿武隈川沿いの広場利用
- 主動線・・・R113号の北側(角田方面)からの左折の進入路と交差点からの進入路を主動線
- サブ動線・・・河岸へのアプローチ(幅広階段、スロープ)、管理用道路のプロムナード利用、内川桜つつみ公園への誘導路
- 防災資材の配置・・・土砂は地中化、岩ズリ・根固めブロック・連節ブロックの集約
- 駐車場の配置・・・平常時の拡張(土砂置き場など)、災害時の転用(平常時の広場)
- 水防センターの配置・・・阿武隈川の眺めを楽しめる川側に配置



2.土地利用・動線・施設配置の見直し

平面図



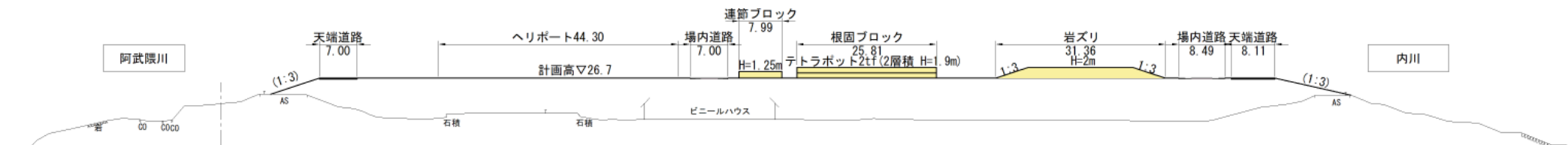
河川防災ステーションの施設規模

種別	面積 (m ²)	備考 (施設の内容、機能等)
資材備蓄スペース	8,700 m ²	
根詰めブロック	2,100 m ²	ブロック : 2t/個、必要備蓄量N=1,610個
岩ズリ	2,500 m ²	岩ズリ : V=3,600m ³
土砂	3,500 m ²	土砂 : V=5,600m ³
連節ブロック	600 m ²	シャックルタイプ N=2,030個
水防センター (車庫含む)	1,005 m ²	建屋敷地面積
建設機械活動スペース	510 m ²	バックホウ (0.7m ³) 4台 (2台/パーティ) が同時に活動できるスペース
水防作業スペース	630 m ²	水防準備活動スペース (土嚢作成、材料積み込みスペース)
駐車場	2,980 m ²	普通車30台・身障者用3台、大型車10台の駐車スペース 駐車場面積 ; A= 2,974 ≒ 2,980 m ²
車両交換所	420 m ²	10tトラック車両旋回スペース
ヘリポート	1,020 m ²	防災用ヘリポート (アロスバ シェル式 AS332L2 型/みちのく号) の離着陸帯、安全带を含む
道路	8,520 m ²	場内道路幅員は、ダンプトラックの往復に必要な相互2車線の幅としてW=7.0m確保 場内道路4,406m ² +坂路555m ² +天端道路3,557m ² = 8,518 m ² ≒ 8,520 m ²
その他	18,355 m ²	盛土法面部A=5,000m ² 、その他
小計	33,440 m ²	
全体面積	42,140 m ²	

➤ 資材の備蓄量

破堤時の堤防被災規模が最大となり、復旧資材を最も多く必要とする角田市内の阿武隈川左岸を対象としている

標準断面図



➤ 本防災ステーションの整備基準高 : 計画堤防高▽+26.7m (近接する国道の道路高)

3.水防センター整備計画(案)ー丸森町計画ー

水防センター+観光交流センター (丸森町計画イメージ)

- 町のゲートウェイとするため、次に示す観光レクリエーション機能の導入を想定し、建物の規模を拡張した。防災棟と観光棟(観光交流センター)に機能を分割。(観光交流センター、飲食・物販のテナント等)
- 展示ホールおよび防災学習室は、防災の観点から水害を含む町の歴史や土地利用の変遷を紹介する施設とし、教育旅行等の受け入れを想定した規模・配置とした。
- 整備内容については、想定される事業者と協議し、持続可能な事業としての検証を進めることとする。

水防センター (当初計画案)

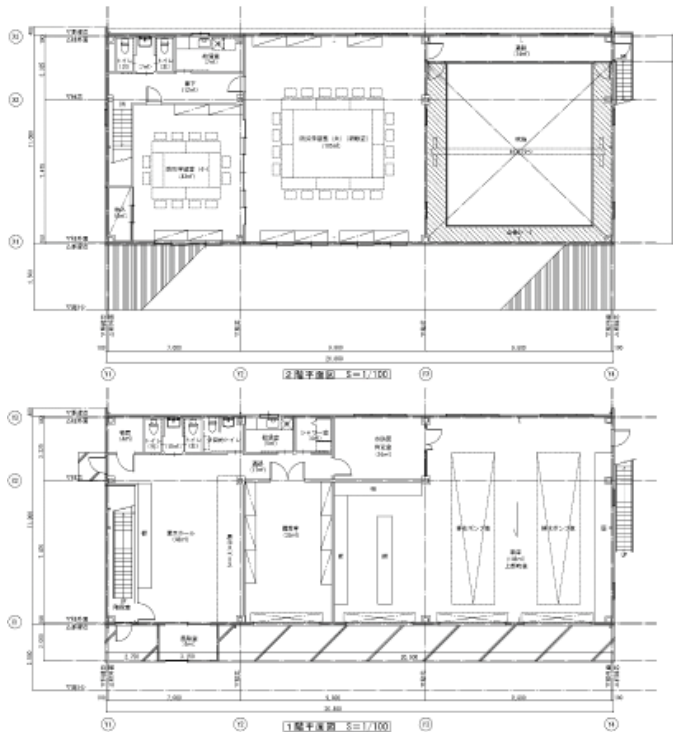
現計画(案)		現計画(案)			
階	諸室名	面積(㎡)	階	諸室名	面積(㎡)
1階	水防団待機室	16	2階	防災学習室(大)、研修室	105
	備蓄庫	35		防災学習室(小)	43
	車庫	146		給湯室	7
	展示ホール	43		トイレ	7
	給湯室	5			
	トイレ	10			
	シャワー室	4			
	物置	4			
	合計	263		合計	162

防災棟 (水防センター修正計画案)

新計画(案)		
階	諸室名	面積(㎡)
1階	水防団待機室	16
	備蓄庫	35
	車庫	146
	防災学習・展示ホール	191
	給湯室	7
	トイレ	10
	シャワー室	4
	物置	4
	合計	413

観光棟 (観光交流センター計画案)

階	諸室名	面積(㎡)
1階	物販コーナー	100
	飲食施設 (50㎡×4店舗)	200
	阿武隈川舟下り 事務室50㎡、待合所50㎡	100
	カヌー・サップの艇庫	50
	水上バイクの艇庫	50
	トイレ	10
	シャワー室	4
	物置	4
	合計	518

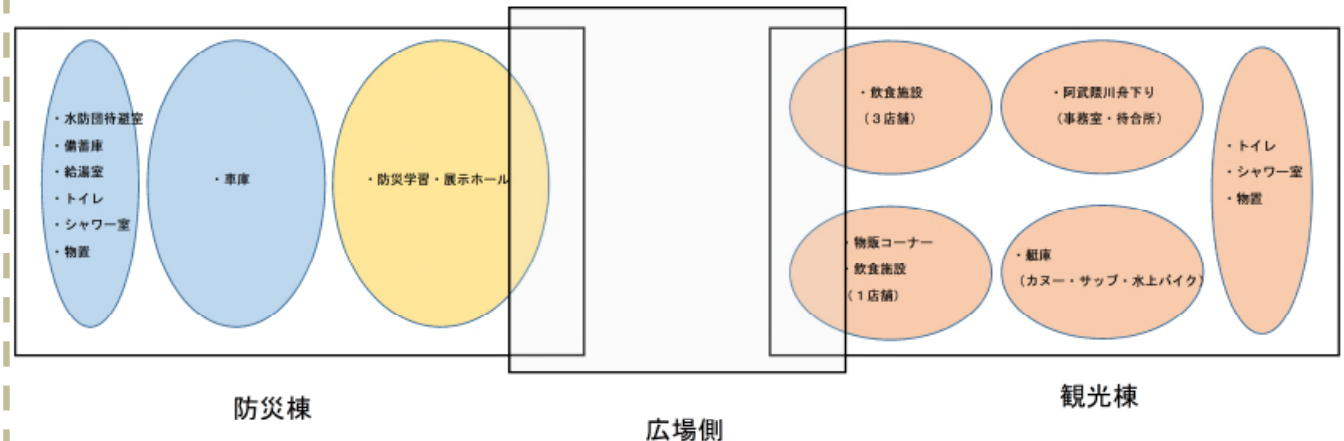


水防センター平面図 (当初計画案)

諸室の災害時利用の例
 ・防災棟の防災学習・展示ホール:【災害時】水防団の司令室や他県等からの援助隊の受援拠点としての利用。区画を仕切ること避難場所の利用を想定。
 ・観光交流センターの飲食施設:【災害時】炊きだしの支援を行うことを想定。

・トイレは、水防センター、観光交流センターに、それぞれ男女2基・他多目的トイレ1基の整備(計10基)を想定。⇒ 平常時の利用をメインに観光交流センターへの集約、規模拡張を検討。

阿武隈川側



防災棟

広場側

観光棟

(水防センター+観光交流センター) 施設イメージ

4.河川防災ステーションの平常時利活用(案)



水防センター
(平屋建て、片側廊下
延床面積:1,000㎡内外)

車止め(脱着式)

天端テラス
(パラソル撤去時は管理用通路)



まちのゲートウェイ

・阿武隈ライン舟下りの拠点

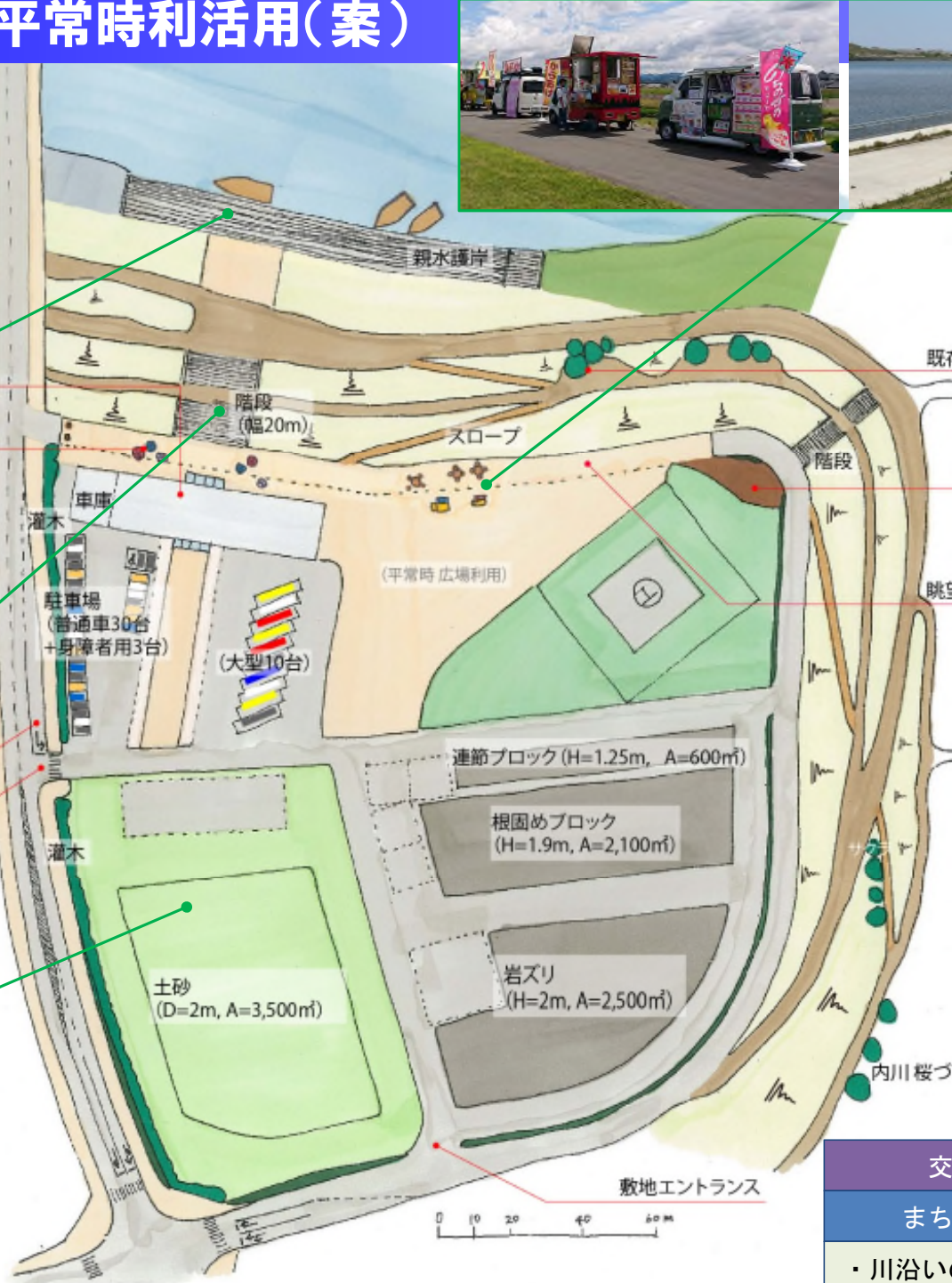
左折レーン増設

敷地エントランス



地域の交流・憩いの場

- ・公園・緑地としての利用
- ・川沿いの広場部分で、週末マルシェ、軽トラ市
- ・その他、広い敷地を活用したバーベキュー場、ドックランなど



既存樹木の保全、ポケットパーク化

眺望広場(阿武隈川下流方向)

眺望プロムナード(丸森大橋方向)

内川桜づつみ公園への誘導

交流・憩いの場

まちのゲートウェイ

- ・川沿いのフットパス
- ・内川と一体の整備

4.河川防災ステーションの平常時利活用(案)

フォトモンタージュ (平常時)



4.河川防災ステーションの平常時利活用(案)

丸森町における平常時利活用イメージ

- ①河川敷公園利用
- ②阿武隈ライン舟下りの拠点(発着場、事務室、食堂(調理室)、物販スペース)
- ③リバーアクティビティの拠点(事務室、ガレージ、更衣室、シャワー室)
- ④イベント会場
- ⑤防災学習(災害記憶の伝承、防災学習、講話、研修、各種防災訓練)

③リバーアクティビティの拠点



サップ



水上バイク



カヌー(他事例)



BBQレンタル



川辺の安全教室(他事例)



カヌースクール カヌー艇庫(他事例)

④イベント会場



阿武隈川清掃美化運動



いかだ下り大会 注)いかだ下り大会は2008年に終了



石投げ選手権大会



サイクルフェスタ



花火大会



マルシェ(他事例)

⑤防災学習



防災学習(他事例)



水防活動訓練(他事例)



イベント(防災フェスタ)

①河川敷公園利用



河川敷公園利用



河川敷公園(他事例)



広場兼用資材備蓄
(備蓄土砂と水防用竹木)



内川桜つつみ公園

②舟下りの拠点



阿武隈ライン舟下り



舟下り拠点(現在)



既設丸森船着場

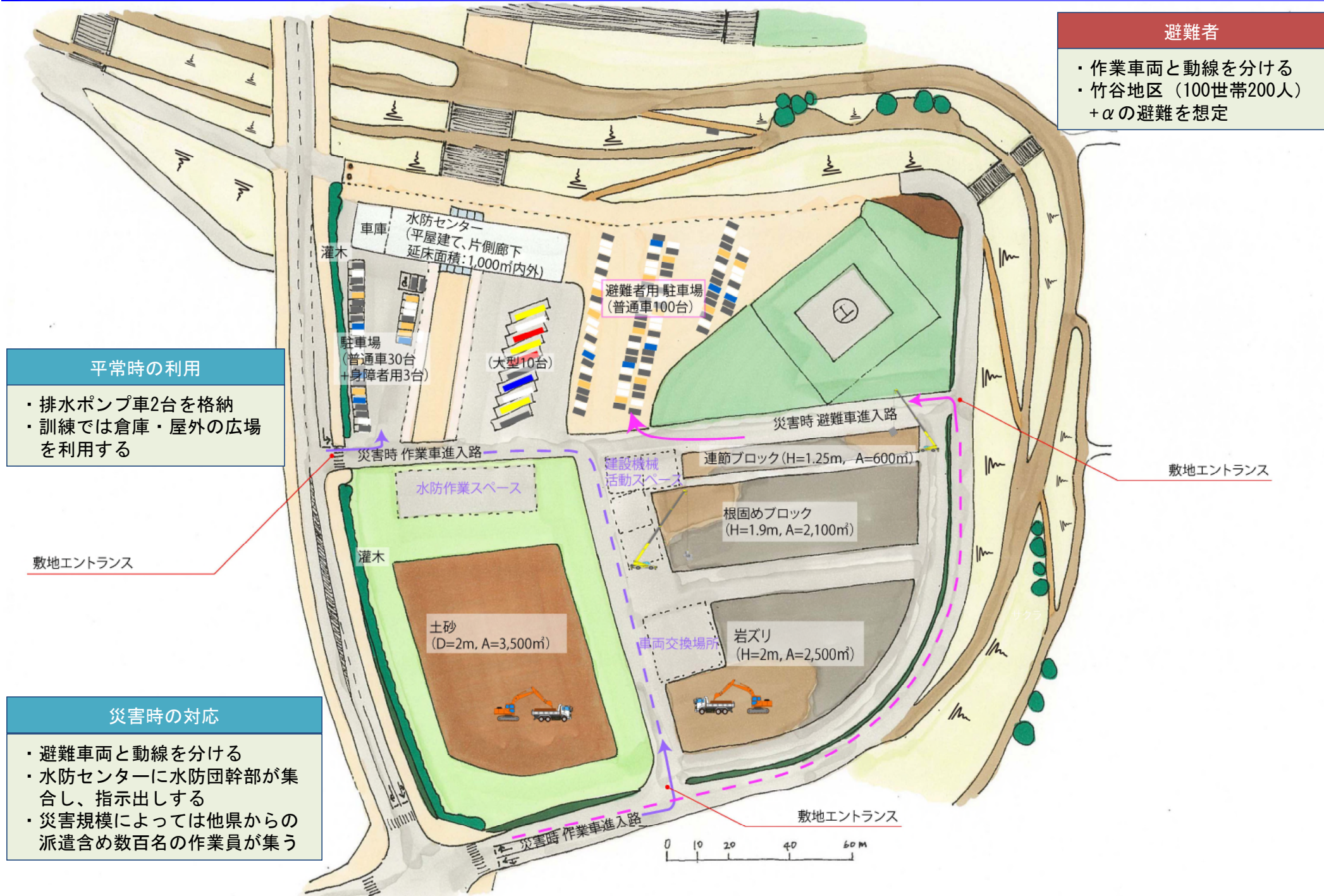


飲食スペース(他事例)



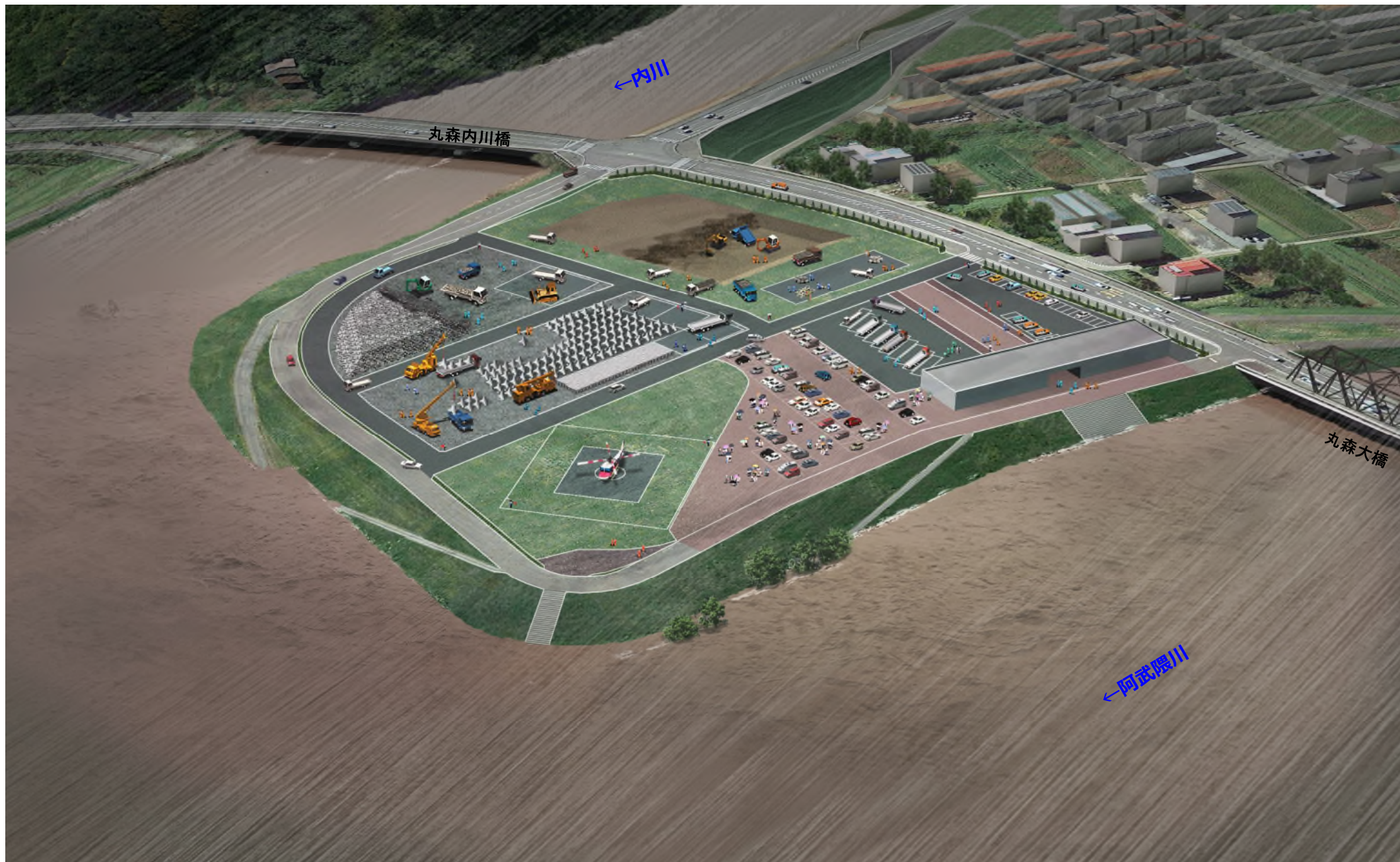
物販スペース(他事例)

5.河川防災ステーションの災害時利用(案)



5.河川防災ステーションの災害時利用(案)

フォトモンタージュ (災害時)



6.河川防災ステーション周辺の利活用構想(案)

「川の駅」としての活用・・・地域が持つ「資源」や地域の創意に富んだ「知恵」を活かし、地域活性化や観光振興などを目的に、市町村や民間事業者、地域住民等と河川管理者が各々の取組みを連携することにより「河川空間」と「まち空間」が融合した良好な空間を形成し、河川空間を活かして地域の賑わい創出を目指す取組み「かわみなとフットパス」・・・丸森町の川湊・渡し・城跡・橋の歴史を訪ね歩く散歩道。町と川のつながりを学ぶ



G 姥石(丸森橋の橋台に利用されている)



F 丸森大橋



E 船着場護岸(近傍に神明の渡しがあった。)



A 阿武隈ライン舟下り乗船場



B 丸森橋(近傍に細内の渡しがあった)



C 船場地区(丸森舟場・丸森河岸とよばれた港町)



D 鳥屋館(伊達家家臣大篠氏の城館。丸森は城下町でもあった。)

6.河川防災ステーション周辺の利活用構想(案)

千葉県多古町の例。栗山川沿いに「あじさい遊歩道」を整備、舟でも楽しむことができる。
 このように川沿いのフットパスは舟運の魅力づくりになる。

「あじさい」でまちづくり（千葉県多古町）

- 栗山川沿い約1.2kmの両岸に約1万株のあじさいを植え、遊歩道がつくられた。(昭和55年、1980)
- 「あじさい」のみならず、春には菜の花、秋にはコスモスが川辺を飾る。
- 6月には、にぎやかに「あじさい祭り」がこの遊歩道で開かれる。
- 道の駅多古あじさい館も整備された。

多古町イラストマップ（中央が栗山川）



あじさい遊歩道



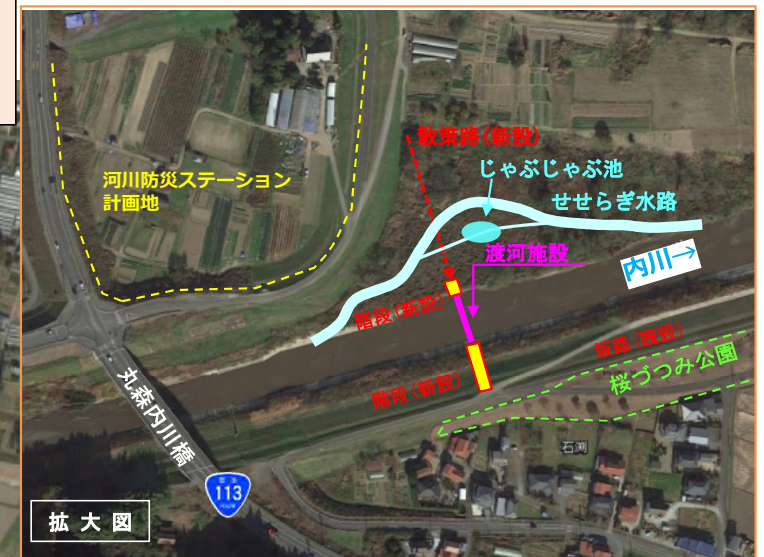
あじさいを舟で楽しむ



「あじさい」でまちづくり（千葉県多古町の例）

6.河川防災ステーション周辺の利活用構想(案)

丸森町河川防災ステーションから内川桜づつみ公園に通じる移動ルートとして、内川に坂路・階段、散策路、渡河施設(飛び石)を設置するとともに、左岸に浅瀬を設け子供たちが水遊びを楽しめるように整備する。



➢ 眺望広場
丸森大橋全体を眺める視点場として、ヘリポート下流側の端部に眺望広場を設置する。



丸森地区河川防災ステーションから内川桜づつみ公園への移動ルート

6.河川防災ステーション周辺の利活用構想(案)

対象地の現況①(左側が内川)



対象地の現況②(内川の右岸に造られた桜堤)



渡河施設の事例①(埼玉県東松山市 槻川:くらかけ清流の郷バーベキュー場)



渡河施設の事例②(長崎県諫早市本明川)



水辺の楽校の浅瀬のイメージ(愛知県岡崎市・伊賀川)



水辺の楽校の活動のイメージ(丸森町大張小学校のサケの稚魚の放流(2019年))

毎年恒例のサケの稚魚放流が上流地区の「上流さくらの広場」で行われました。



今年は大張小学校の3・4年生6名が参加してくれました。



河原に降りて、いざ放流!





丸森地区河川防災ステーション整備・利活用検討委員会 全体スケジュール（案）

- 令和3年11月16日 第1回 検討委員会開催
 - ・ 委員会設立（設置要綱等）
 - ・ 河川防災ステーションの配置、設備における意見交換
 - ・ 河川防災ステーション利活用における意見交換
 - ・ 上記における方向性のとりまとめ

- 令和4年 1月17日 第2回 検討委員会開催
 - ・ 第1回検討委員会での方向性における議論
 - ・ 河川防災ステーション整備・利活用における検討委員会（案）のとりまとめ

- 令和4年2月中旬頃 住民説明会開催
 - ・ 第2回検討委員会でとりまとめた検討委員会（案）の住民への提示
 - ・ 検討委員会（案）における住民の意見収集、とりまとめ

- 令和4年3月上旬頃 第3回 検討委員会開催
 - ・ 住民意見のとりまとめ内容に対する検討委員会（案）の変更協議
 - ・ 河川防災ステーション整備・利活用における素案のとりまとめ

【参考】検討の流れ

主な検討項目	令和3年度	令和4年度以降
河川防災ステーションの施設配置 周辺を含めた利活用構想(案)の策定	丸森地区河川防災ステーション 整備・利活用検討委員会	
具体的な利活用内容の検討 水防センター施設設計検討		令和3年度の委員会を 引き継ぐ新たな委員会